

処方箋の煩雑さの軽減

退院時合同カンファレンスを通して服薬時点の確認による用法変更提案

【入院時処方内容】			
	薬剤名（一般名）	規格	1回量 用法
1	ワルファリンカリウム錠	1mg	1錠 昼食後
2	アゾセミド錠	60mg	0.5錠 朝食後
3	エソメプラゾールカプセル	20mg	1Cap 朝食後
4	葉酸錠	5mg	2錠 朝夕食後
5	ジルチアゼム塩酸塩徐放カプセル	100mg	1Cap 就寝前
6	プロチゾラム錠	0.25mg	1錠 就寝前

内服薬 : 6種類	薬剤管理 : 家族
服薬回数 : 4回	服薬支援 : 一包化

【退院時処方内容】			
	薬剤名（一般名）	規格	1回量 用法
1	ワルファリンカリウム錠	1mg	1錠 朝食後
2	アゾセミド錠	60mg	0.5錠 朝食後
3	エソメプラゾールカプセル	20mg	1Cap 朝食後
4	葉酸錠	5mg	2錠 朝夕食後
5	ジルチアゼム塩酸塩徐放カプセル	100mg	1Cap 夕食後
6	プロチゾラム錠	0.25mg	1錠 頓用 不眠時

内服薬 : 5種類	薬剤管理 : 病棟管理
服薬回数 : 2回	服薬支援 : 一包化

【患者情報】 70 歳代 男性 入院患者 （入院期間： 34 日 ）

診療科：循環器内科

主疾患	高血圧性心疾患、慢性心房細動、慢性腎不全、貧血、高血圧、脂質異常症				
病歴	陳旧性脳梗塞、廃用症候群				
生活状況・入院契機など患者背景	要介護5で寝たきり状態となっていたが、息子夫婦との同居され在宅介護を受けていた。介護保険を利用しており、介護士が朝の介入時に呼吸苦を発見、救急要請した。今回、うつ血性心不全および肺炎にて入院となった。				
認知症	なし		介護認定	あり	要介護5
薬剤有害事象	なし	()	副作用歴	なし	()
アドヒアランス	良好	(自宅では家人とヘルパーの薬剤管理)	アレルギー歴	なし	()

【入院時情報】

入院時の採血結果：PT-INR : 1.67、血清 Na 138mEq/L、K 5.2mEq/L、血清 Cre1.54mg /dL

薬は6剤であるが、服薬回数が4回に分かれており、昼のワルファリンのみの用法や夕食後の用法と別にジルチアゼム就寝前があり、用法が煩雑である。昼のワルファリンについては朝の内服介助忘れが多く、飲み忘れがあったとのことで、ヘルパーの確認・服薬介助できる昼食後の用法となっていた。ジルチアゼムの用法については本人や家族等にも確認したが、複雑な用法について前医の処方意図は不明であった。

【key word】

薬学的な管理の実施、入院時の持参薬鑑別、薬歴聴取による処方提案、多職種との連携、
退院指導時の情報提供によるアドヒアランスの向上・維持、在宅患者への包括的な対応、
退院時合同カンファレンス時の情報共有

【処方見直し前の問題点】

①退院時合同カンファレンスにて家族や在宅で介入していたヘルパーに確認した際、今まで朝の内服薬剤は飲ませ忘れがあったため、飲み忘れることで有害事象のリスクが増大するワルファリンのみ昼投与に変更され、ヘルパーが服薬介助していたとことが判明した。現在では息子の仕事も落ち着き、今後は自分が朝に服薬介助可能とを確認できた。また、4回ある服薬介助を減らせないか、家族と病棟看護師からの要請もあったことから、服薬回数の削減について検討した。

②定期内服しているプロチゾラムはベンゾジアゼピン系薬剤のため、高齢者で漫然内服は適切ではないと考え、本人と相談、睡眠状況を確認し、減薬を検討した。また、その他の薬剤の評価は、入院から10日目まで集中治療室に入院しており、その後一般病棟へ転棟したために薬剤見直しの検討時間が少なかったが、服薬指導時にお見舞いに来た家族からも聞き取り等を行い、用法の煩雑さを中心に退院後の服薬計画を検討した。

【処方提案の具体的な内容】

①主治医に家族等から得られた用法等の経緯や情報を報告し、ワルファリンは昼食後から朝食後、ジルチアゼムは寝る前から夕食後に用法変更を提案した。

②プロチゾラムは、入院中は集中治療室から一般病棟に転棟する前には服用していなかったことを確認した。また本人から今まで定期服用ではなく、たまに眠れないときだけの内服していて特に問題ないとのことを聴取することができた。そこで主治医にプロチゾラムは、入院中は頓用使用で良いか変更提案し、さらに処方中止が可能かを服薬計画として検討した。

【多職種との関わり】

職 種	主な連携内容
医師	用法変更における処方提案。採血時のPT-INR測定依頼
看護師	退院時合同カンファレンスに向けての薬剤管理についての相談
訪問看護師	退院後の内服薬剤の管理状況の確認について
医療ソーシャルワーカー	退院時合同カンファレンスに向けての薬剤管理についての相談
退院調整看護師	退院時合同カンファレンスに向けての薬剤管理についての相談
ケアマネージャー	退院時合同カンファレンス・自宅での薬剤管理について確認・ヘルパーと服薬介助の状況について確認
家族	退院時合同カンファレンス・自宅での薬剤管理について確認

【減薬後の経過】

①今回、入院を契機に用法を1日4回から2回にまとめることができ、従来は服薬介助をヘルパーに依頼していたが、今後は他の仕事を昼にプランを組み入れることができるため、家族とケアマネージャーからは良かったとの肯定的な意見があった。

②集中治療室から一般病棟に転棟数日間はプロチゾラムを3回使用していたが、それ以降は不眠の訴えはなく使用していなかった。一方、今まで服用していた薬が減薬されることについては家族が不安だと服薬指導時に聞き取りすることができた。入院21日目の退院時合同カンファレンス時に今後の使用状況を見て、最終的に減薬することができるかプロチゾラムの使用状況を記録するようにと家族に提案し、その記録をもとにあまり使用されていないときは、退院後にかかりつけ医とかかりつけ薬局に処方中止などの相談を行うように指導した。

今回、退院時合同カンファレンス等を通じて、家族の要望があったため退院時処方としてはプロチゾラムを定期から頓用に変更提案のみとして中止提案は行わなかったが、定期内服薬剤では6剤から1剤削減するとともに複雑な用法の見直しにより服薬アドヒアランスの向上に寄与することができた。